

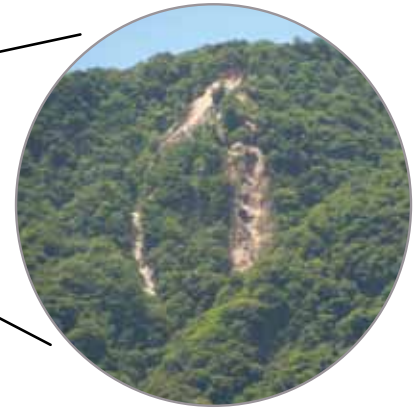
# 眉山の全景



熊本地震前



熊本地震後（4月）



熊本地震による影響で一部剥離した5溪山頂部



記録的な大雨後（6月）



記録的な大雨による影響で表面剥離した5溪山頂部

※写真の一部は種村繁守さんから提供

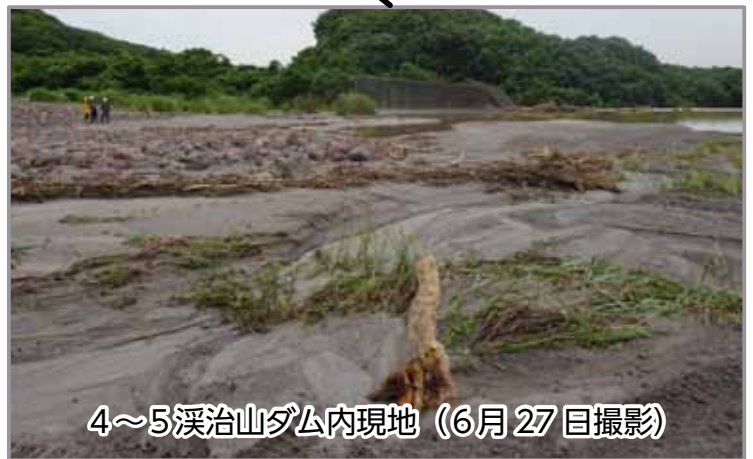
## 地元住民の声

長年、雲仙・普賢岳や眉山を見続けてきた種村繁守さん（小山町在住）からお話を聞きました。「自然の力は本当に凄まじいものです。私たちは日ごろから身の回りの危険な場所をしっかりと確認しておくことが大切です。まずは自分の身は自分で守ることや一人一人が災害に対する意識をさらに高めることが重要です」



0～2溪砂防ダム内現地（7月7日撮影）

6月の大雨の影響で約1万立方メートルの土砂が流出し、砂防ダムの中程まで到達。今後、同規模の土石流が発生した場合でも土砂を捕捉できる容量はまだあります



4～5溪治山ダム内現地（6月27日撮影）

5溪から約6000立方メートルの土砂が到達。この下流にある治山ダムおよび砂防ダムには土砂は溜まっていません

## 上空からの現地視察



8月10日、古川市長、永田議長と林野庁の職員がヘリコプターによる上空からの現地確認を行い、現状の把握と今後の対策について意見交換を行いました。

林野庁からは、「4月の熊本地震、6月の大雨で眉山の一部に山腹崩壊や剥離が見られているが、治山施設の効果が発揮されており、直ちに市街地などへの影響は考えにくい。今後は、治山ダムの新規設置などで対処していくとともに、航空実播工の緑化により剥離の拡大を最小限にとどめていきたい」との見解がありました。

今後も、国や県と連携を図りながら、さらなる監視体制を強化していくことを確認しました。